

# 中学3年生 受験に向けた対応（新聞からの引用）

## 1 長期的な流れ

### （1）1学期—基礎力養成

夏休みまでの約4か月間は、中1・2の復習を一通り終了させ、基礎固めをすることに力を入れましょう。入試問題の約7割を中1・2の内容が締めているので、これはとても重要です。

### （2）夏休み—不得意分野の克服

夏休みの最大の課題は、中3の1学期までの内容を総復習することと、不得意分野の克服です。

### （3）2学期—実践力養成

夏休みが終わったら、入試の過去問（過去に実際に出題された問題）を解き始めます。まず、5年分の過去問を解いてみて、できなかった問題とその解き方を、科目別の間違いノートに書き写します（ただし、中3の未習分野は除きます）。間違いの原因を探り、解説できちんと理解できたら、解けるようになるまで繰り返し練習しましょう。

### （4）冬休み—中1から中3の総復習

2学期中に、中3の学習内容もほぼ終了します。そこで冬休みは、3年間の総復習と、過去問で保留していた未習分野の問題を中心に進めましょう。

### （5）3学期—過去問の反復

冬休みが終わったら、入試直前の総仕上げに取りかかります。過去問をひたすら繰り返し、学んだすべての内容を完璧にできるようにしましょう。入試直前まで少なくとも3回繰り返し、得点力がアップします。「中2までの復習も同時に」開倫塾講師 安藤明良『読売新聞』2014年（平成26年）3月28日（金）より

## 2 夏休み中のポイント

夏休みに取り組むのは、3年1学期までの各科目の総復習、不得意分野、学校の課題です。それぞれにかかる時間の割合は、2対2対1が適しています。「中3生学習計画の点検を」開倫塾講師 安藤明良『読売新聞』2014年（平成26年）8月1日（金）より

## 3 入試1ヵ月前

県立高校入試に出題される問題は、各教科とも教科書レベルを逸脱したものではありません。これは、教科書の全内容が身に付いていれば、合格に手が届くと言うことです。ですから、過去問を解いたあとは必ず教科書を読んでください。例えば、理科で間違えた問題があったときは、それに関連する単元をすみからすみまで丁寧に音読しましょう。すると、解法のヒントが見つかったり、理解が不十分だったところが「そうだったのか」と納得できたりします。「過去問と教科書で総仕上げ」開倫塾講師 渡辺博『読売新聞』2017年（平成29年）2月19日（日）より

この時期は新しい問題集に手を出さず、今までやってきたものを繰り返して、得点力を高めていきましょう。「問題集繰り返して得点に」開倫塾教務本部長 渡辺博『読売新聞』2016年（平成28年）2月5日（金）より

## 4 入試1週間前

入試までの1週間は、教科書や今まで取り組んできた問題集を中心に、基本知識と解き直しに力を入れてください。特に、模試で間違えた問題などを重点的に解き直すといいでしょう。ただし、難問へのチャレンジは緊張や不安をかえって高めがちですから避けましょう。

入試前日は、5教科をまんべんなく見直す程度にとどめましょう。一度覚えた内容は、軽く見直すだけでも頭に入ってきます。「自分はこれだけ頑張ってきたのだから大丈夫」と自信を持ってください。（中略）試験時間に合わせて、朝型の生活リズムに慣れておきましょう。「生活リズムを朝型に」開倫塾講師 徳田進『読売新聞』2015年（平成27年）2月27日（金）より